

Sep. 4, 1993：石垣島バナナ公園

公園裏手の道沿いセンダングサが多くみられるあたりでオジロシジミを初めてネットに納める。本種は郷里の高知市五台山で迷蝶として記録されているのであまりにあっさり採れてしまうと妙な感じ。

Sep. 20, 1997：西表島

マルバネリリが現われる様子もないので南風見田に見切りをつけて帰路につく。ミカンをほおぼりながら歩き続けるおじさんに「お先に」とあいさつをし、帰りはつとめて枝分かれして伸びる農道に踏み込んでみる。狭い急坂の小道を下ると両側に複雑な浸蝕あとを残す崖のすきまをぬけ、自然と浜辺に出てしまう。そこに新鮮なオジロシジミがいてうれしい思いをする。激しく飛び回るのもっぱらウラナミシジミで、それよりはおとなしくチョロチョロと低く飛ぶ水色がオジロシジミという感じ。

Sep. 16-17, 2004：与那国島

車道に出て右に大きくカーブするつきあたりが昨年ウスアオオナガウラナミシジミと戯れた草つきで、ヤブツルアズキの種類が一面にマントを形成していて、幸いオジロシジミがたくさん飛び交っている。目にまで入ってくる汗や、その汗が熱気で蒸散してファインダーが曇ってしまうなどで、小さな被写体にフォーカスをあわせるのが容易ではないが、一眼レフデジカメにグレイドアップしたおかげでまずまずのスナップ写真を確保する。

9月17日：自転車を一昨年ヤギがいた小屋横にとめてオジロシジミのいた草むらまで上る。今朝出会ったバイクの青年は、幸い根こそぎチョウをとりまくるようなタイプではなかったようで、あいかわらずマメ科植物が主のマントを形成する草むらにオジロシジミが遊んでいる。できれば開翅場面をカメラでねらいたいの

だが11時も近い時間帯ではもう飛び回る個体ばかり。それでも何とかいいタイミングをと1頭の動きに絞ってフォローしていると、どうやらメスだったらしく突然あらたに現われた1頭



(オス)が先に止まっていた個体からんだかと思うまもなく、あっという間に交尾が成立する。またとないラッキーチャンスをじっくり接写レンズで捉えることができ大満足。オスと思われる個体がしきりに後ろ足をいそがしく動かすしぐさはこれまで見た記憶がなく、せっかくのチャンスをビデオにも記録する。

Dec. 3, 2012：石垣島川平

川平に着くころにはありがたい好天気となる。以前に車で入り込めた道路が進入禁止となっていて、やむなくグラスポート乗り場に近しい広場へと車を進めると、スジグロカバマダラとリュウキュウアサギマダラが翅を水平に広げて体温の上昇を待っており、ナミエシロチョウとリュウキュウミスジはもう活動を始めている。やがてスジグロカバマダラがどこから出てくるのか、次々と湧き出るように飛び出してくる。この広場にくるチョウの数が減ったところで、もっと広い休耕畑地があると思われる場所へと移動する。その途中、間違っ入り込んだコーナーで期せずしてオジロシジミをみる。

